

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し、いつでも確認できるようにしている。事業計画にも反映している。もう一つの我が家のように過ごしていただけるよう努めている。	三つの法人理念とホーム独自の理念「高齢者のもうひとつの我が家・安住の場となることを目指します」を掲示し、来訪者にもわかるようにしている。ホームのケア会議が2ヶ月に1回行われており、その中でも法人やホームの理念にふれ実践に繋げている。家族に対しては利用開始時に理念に沿った支援について説明をしている。法人の他施設や事業所からの職員の定期異動もあることから、地域密着型サービスとしてのホームの考え方を周知している。職員の中で理念にそぐわない言動等があった場合は注意を喚起している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し協力費を収め、地区総会等に参加している。ご近所の方に差し入れをいただいたり近所づきあいができている。、地区の資源回収等に協力している。現在は感染症予防のため交流に機会が減っている。	自治会に協力費を納め、一員として活動している。地域との防災協定が結ばれており、今年度は新型コロナウイルス禍のため自粛となっているが、例年、地域の防災訓練に管理者が参加している。また、例年であれば地区の総会にも職員が参加しているが、今年度は中止となっている。また、同じく例年であれば、秋のお祭りに「獅子舞」が来訪したり、「どんど焼き」にも利用者が見物に出掛ける予定となっているが、新型コロナ禍のため自粛せざるを得なくなっている。更に、傾聴や草取りのボランティアとの交流についても中止としている。そうした中、近所の方からの野菜・果物などの差し入れが引き続き行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人に向けての活動はできていない。ボランティア、区の役員、運営委推進委員等、関わりを持っていただいている方に認知症の理解を深めていただくようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスや事故等について現在取り組んでいる内容を報告し意見をいただくようにしている。評価結果についても報告し、意見をいただいている。防災や地域交流等のサービス向上に活かしている。	基本的に奇数月に、家族代表、民生委員、地区の相談役、地区社協会長、地域包括支援センター職員、ホーム関係者の出席で開催している。今年度は新型コロナウイルスの影響を受け、一時下火となった7・9月には会議を招集できたが、他の、3・5・11月は書面での報告と意見・助言の回収となったという。会議では入居者状況、職員体制、事故報告等、運営についての報告、質疑応答、身体拘束に関する適正化委員会等を行いサービスの向上に繋げている。また、昨年10月の台風19号の後には水防避難計画等についても相談している。更に、職員に対してはケア会議で会議の報告を支援に役立てている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員に市町村担当者として、地域包括支援センターの職員に委託している。地域の高齢者福祉の状況等意見交換をしている。運営の方法や対応に不安な場合等積極的に意見を求めるようにしている。	市とは様々な事柄について相談し関係を深めている。新型コロナウイルスの影響を受け、あんしん(介護)相談員の来訪も例年であれば月1回あるが、今年度は1回のみとなっている。介護認定更新調査については調査員がホームに来訪し行っている。市保健所主催の新型コロナウイルス対策の研修会やZOOMによる研修会にも参加し、ホーム内のサービスの向上に役立てている。	

グループホーム川田の宿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ケア会議にて高齢者の権利擁護や身体拘束に関する勉強会を行い、職員の意識共有を図っている。危険防止のため、玄関中戸については職員不在時等は施錠することがある。	ケア会議の中で勉強会を行い意識を高め、拘束のないケアに取り組んでいる。外出傾向の強い利用者については見守りしつつ場合によっては穏やかになるまでホーム周辺の散歩に出かけている。ベッドからの立ち上がりによる転倒・転落が心配される利用者については運営規定等に基づき家族の了解後センサーを使用することがあるが、ケア会議で検討を加え早期に解除するように心掛け取り組んでいる。玄関は職員体制が手薄でやむを得ざる場合を除き開錠されている。所在確認についてはリビングに必ず職員がいるように心掛け、離設等につながらないようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	ケア会議にて高齢者虐待防止について勉強会を行い、意識共有を図っている。日常の支援の中でも、言葉使いや対応等でも虐待に当たる場合がある等、ケア会議の中で話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ケア会議で権利擁護についての研修を行っている。成年後見の必要なケースについては、管理者、計画作成担当者が家族と対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を取って丁寧な説明に心掛けている。入院時の対応、利用料金、退所の要件等は詳しく説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付設置要綱を定め、契約時に文書で説明している。ご家族には、面会時や送付時連絡票で意見を聞くようにしている。玄関に意見箱を設置している。いただいた意見は会議で検討し反映するようにしている。	大半の利用者が何等かの方法で意見や思いを伝えることができ、職員は表情も含めて判断しそれらに沿った支援に繋げている。新型コロナウイルスの影響を受け家族との面会は窓越しあるいはタブレットでの面会となっているが、家族の来訪も例年通り週1～2回、月2回など継続してあり、ホームとしても来訪し易い環境作りに努めている。窓越し面会では紙やカードに文字を書き持参する家族もいるという。今年度は家族の参加はなかったが例年実施している夕涼み会は利用者や職員のみで実施した。担当する職員から毎月の利用者の生活の様子、健康や血圧、現金管理、そのほかについて記した「送付時連絡票」を家族あてに送付し、写真も同封している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア会議で意見を聞き運営に反映させている。日頃から職員との日常的なコミュニケーションに努め、意見の言いやすいよう配慮している。	日々の申し送りで情報の共有化を図っており、職員からの意見や提案も受け、可能なものは運営に活かしている。ケア会議を2ヶ月に1回行い、連絡事項、各利用者の状況について、各種勉強会、意見交換等を行い、サービスの向上に繋げている。また、年1回、施設長あるいは管理者による個人面談を行い、職員の意見・要望を吸い上げモラールアップに繋げている。法人としてストレスチェックが実施されており、その結果を生かして職員が安心して働ける職場環境づくりを行っている。	

グループホーム川田の宿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の疲労やストレス、体調等に配慮し、体調の悪い時には休養が取れるよう配慮している。職員同士の人間関係についても把握するよう努めている。スキルアップのための研修等については勤務を調整する等配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に応じ研修計画に沿って対応しているが、外部研修については一部の職員しか参加できていない。内部研修が多くなっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡会や研修会等で情報交換を行っている。法人内での会議や、研修、人事交流等で情報交換や他事業所の理解に努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接や、関係者との面会で生活状況の把握に努め、ご本人の不安や要望を受け止めるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族や介護支援専門員、他サービス事業所等からサービスの状況、ご家族の要望、困っていること等を聴くようにしている。入居前の施設見学を勧め、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込み前の施設訪問や、電話での相談を受けた中で必要なサービスを勧めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを共有し、利用者から学ばせていただくことも多い。特に料理や裁縫、畑の仕事等相談しながら行うことも多い。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	訪問時や送付時連絡票で生活の様子を説明、相談をしている。特に入居直後の利用者は、面会回数を増やす、電話で生活の様子を伝える、情報をいただく等ご協力いただいている。緊急時、体調不良時等は電話で報告し、受診、入院等の対応をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入院した利用者がある場合は、面会に行く等で関係が切れないようにしている。面会時にご家族が親しい方を一緒にしてくれることもある。現在は感染症予防で面会も制限しており、外出も控えているため、支援できていない。	新型コロナウイルスの影響を受け、近所の方や前にいた施設の職員などの来訪も中断している。携帯電話を持つ利用者があり、家族と電話をし、必要な物品の購入を依頼することもあるという。例年であればお墓参りやお盆に自宅に戻られる方や馴染みの美容院に出掛ける利用者もいたが、現状は自粛となっている。職員が手伝い年賀状を出される利用者も数名いる。デイサービスで一緒であった利用者同士がホームでまた一緒に暮らすことになり、旧交を温めるケースも見られリビングで楽しく過ごしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員で利用者の情報を共有し、関係づくりに努めている。作業を一緒をお願いする等で協力し合う関係ができています。苦手な方同士にならないよう職員が配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	意識的に連絡等はしていないが、契約が終了しても事業所に顔を出してくださる方や、関係が切れずにいる方もいる。法人内で移設された方については関係が継続している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の言動、態度、行動等を受け止め、本人の望んでいることを把握するよう努めている。意向の把握が困難な時には、不安にならないよう話を聴く等の対応をしている。	思いや意向の把握については、日々、希望の食べ物や行きたい所などについて希望を聞き、また、一人ひとりの生活歴も参照し提案を行い、意向に沿えるようにしている。また、利用者の得意なこと、できること、趣味などについても時間を設け、合わせて、昔の話なども聞くようにしている。更に、利用者のつぶやきや特記事項を介護日誌に記録し、職員間で情報を共有しケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご本人、ご家族から話を聞いている。入居後も関わりや会話の中から把握に努めている。面会時にも伺うようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前にご本人、ご家族から生活の様子を聞くようにしている。記録や申し送り等から情報を共有している。アセスメントで現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や会議、担当者、主治医からの意見をもとに本人の希望に沿ったケアプランの作成に努めている。	職員は居室担当として1名の利用者を担当し、家族への手紙、居室の管理、消耗品の管理等を行っている。モニタリングは管理者とケアマネジャーが行い、申し送り時などに各職員の意見を聞き、合わせて家族の希望も来訪時と電話で聞きプランを作成している。入居時は3ヶ月に1回、変化がなければ6ヶ月に1回の見直しを行い、入退院時と変化が見られた時には随時の見直しを行っている。	

グループホーム川田の宿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に記入している。伝達や共有、記録が不十分で対応が遅れてしまうことがある。共有ノート等で情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診についてはご家族の対応となっているが、ご本人の状態を看ながら、受診、往診等の対応をしている。ご家族が対応できない買い物、外出や通院、緊急時の送迎、付き添い等の対応をしている。サービスの多機能化には取り組んでいない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	法人内の交流、運営推進会議、回覧板等で地域の状況を把握し生活に活かしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医や利用以前からのかかりつけ医でも診察が継続できるよう対応している。緊急時の対応については、ご家族の意向を確認しながら対応している。	基本的に入居前からのかかりつけ医を継続するようになっている。内科と循環器科のホーム協力医がいることからそちらに変更する方が多く、受診の際は家族の付き添いあるいは職員がお連れするようにしている。また、非常勤の看護師が週3日前後勤務し利用者の健康管理を行い24時間のオンコールも可能となっている。更に、法人の他の施設の看護師とも相談できる環境にあり、緊急の際には管理者を中心に万全な対応が出来るように体制を整えている。歯科についてはホーム近隣の歯科への受診で対応している。同じ法人の他の施設で顔馴染みとなっている理学療法士が定期的に来訪しており、身体機能の衰えなどの相談に乗っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と連携をとり対応している。排便管理や傷の処置、体調変化によるスムーズな受診につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院前の生活の様子を伝えたり、入院中の様子を確認する、退院時の家族説明に同席させていただく等、退院後の対応がスムーズにできるよう対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期に施設でできる対応等を説明し話し合っている。退院時等状態変化のあった時にも終末期の意向等を確認している。終末期には、主治医と連携を取り、ご家族に協力していただきながら支援している。	ホームとしての「重度化、終末期ケアの対応指針」があり利用契約時に説明し、意向確認書も頂いている。その上で、状況に変化が生じた時には改めて希望を聞き同意も得て、家族と共に協力医に出向き話し合いの時間をもち看取り支援に繋げている。家族の協力もいただきながらこの1年内で2名の方の看取りを行い、開設以来18名前後の看取り支援を行っている。緊急の際には管理者を中心にその都度状況に合わせ話し合い、ホームとして出来る限りの支援を行い最期の時を迎えるお手伝いをしている。	

グループホーム川田の宿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	経験が少ない職員や救急法等の実践的な研修を受けていない職員もあり、職員も不安を持っている。看護師から個別に研修受ける予定を立てているが全ての職員への定期的な訓練は必要だと考えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者と共に火災を想定した訓練を実施しているが地震や水害等の訓練は実施していない。地区とは応援協定を締結しているが、地域と連携した訓練は実施できていない。	例年、年2回、春と秋に防災訓練を行い、うち1回は消防署員の参加もいただき実施している。今年度は新型コロナウイルスの影響を受け、ビデオ研修を予定しているが、例年、消火器を使った消火訓練、ユニット間を移動させての避難誘導訓練、通報訓練などを行い、防災への意識を高めている。地元と防災協定も結ばれており、災害時における避難等の協力体制も整備されている。また、利用者の居室には軍手、ペットボトル、防災頭巾、保温シート、タオルなどが入った避難袋が準備されている。合わせて米、缶詰、水、レトルト食品などの備蓄も三日分、準備されている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ケア会議等で言葉かけや接し方について検討し対応しているが、言葉使いには配慮が足りない時がある。一人ひとりを尊重した対応を心がけている。	日々、「親しい中にも礼儀あり」の気持ちを持って接するよう心掛け、特に、声掛けや言葉遣いには気をつけている。ケア会議の中で虐待やプライバシー保護について理解を深め、職員一人ひとりが意識を高め取り組んでいる。特に、トイレ誘導など排泄に関連する声がかけては周りに気遣いするよう徹底している。入室の際にはノックをし、呼び方は基本的に「さん」付けでお呼びしている。排泄時や入浴時には利用者の意向に応じ、異性から同性への介助に変更している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	寄り添う機会を増やす、言葉や行動の中から読み取る等に対応している。選択肢を作る等自分で選択できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調等に配慮しながら、できるだけその日の様子で対応できるよう努めている。入浴等、職員の都合で決めてしまうことがあるが、日や時間等についてはできるだけ希望に沿うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服を自分で選んでもらう、部屋を出る時は身だしなみを整える等の対応をしている。行きつけの美容院に家族と出かける方もあるが、現在は感染症予防のためできていない。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、配膳や片付け等、できる利用者と一緒にしている。好みを把握し、その方だけ別献立にする時もある。畑で野菜を作り、収穫と季節の食事の楽しみにしている。食材の買い出し等も一緒に行っていたが現在は感染症予防のため実施していない。	自力で摂取できる方が多く、半介助の方が四分の一ほどという状況である。献立は過去のデータを参考に季節に合わせてアレンジしており、法人の栄養士によりカロリーなどのチェックを受けている。利用者の嚥下の状態や栄養状態によりペースト食を交ぜたり、水分にトロミをつける利用者もいる。お手伝いは力量に合わせて、配膳、下膳、食器拭きなどに参加していただいている。誕生日は好きな料理とデザートでお祝いし、クリスマス、正月、お盆、ひな祭り等に合わせて季節の料理も提供している。また、利用者手作りのニラせんべいや餃子などを食べることもある。敬老会、開所記念デーにはお寿司などを楽しんでいる。	

グループホーム川田の宿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量、摂取状況等を記録し把握している。補食の果物やパンを用意する等食事量が少ない時等に対応している。水分摂取についても、回数を増やして提供する、好みの飲み物を勧める等の支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分のできる利用者には声をかけて促している。歯間ブラシを使う、液体歯磨きを使う等利用者に合わせて対応している。ケアが夕食後のみになってしまうことがある。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を利用し排泄パターンの把握に努めている。日中はできるだけトイレでの排泄を勧めている。おむつ外しまではできていない。	排泄チェック表を用いパターンを把握し一人ひとりの状況に合わせ声掛けを行い、起床時や就寝時、食事前など定時での声掛けも行い、できるだけトイレで排泄するようにしている。布パンツの方が数名でパットを併用している方もおり、他の方はリハビリパンツでパット併用となっている。また、夜間のみポータブルトイレを使用する方も数名いる。人前で失敗したりすることもあるが速やかに車イスに移乗し、トイレや浴室で対処している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便がないと食欲が落ちたり、不穏になる等の体調変化が見られることは理解している。チェック表を利用し排便確認をしている。水分摂取を促す、オリゴ糖や乳製品を利用する、運動をする等で働きかけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の意向を確認し行っている。入浴の時間は日中のみで夜間入浴は行っていない。	一部介助の方が大半で、見守りを必要とするが自立されている利用者が若干名おり、また、全介助の方も数名という状況である。中には職員二人で介助する方もいる。基本的に週2回以上の入浴を行っている。午前中の中入浴を基本としているが午後を希望する方もおり、希望に合わせている。入浴拒否の方が若干名いるが、時間を変え、日を変え、工夫をして必ず2回は入浴できるようにしている。ゆず湯やリンゴ湯等、季節のお風呂も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を勧め夜間の安眠につなげている。室温や音、照明等環境に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を職員が確認できるようにしている。チェック表を利用し、誤服薬や飲み忘れを防いでいる。新しく処方された薬等は副作用等に注意し、体調に不安がある時は主治医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物量み、洗濯干し、調理、刺し子等できること、得意なことができるようにしている。少量ではあるが、晩酌をする方もいる。週2回のPTの訪問も良い気分転換になっている。		

グループホーム川田の宿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	食材の買い出しや、気分転換の夕食等に出かけている。誕生日や季節のドライブ等で外出の機会を増やしている。現在は、感染症予防のため、職員と屋外へのドライブやピクニック程度の外出となっている。	自力歩行の方、杖・シルバーカー使用の方、車イス使用の方、それぞれ三分の一ほどという状況である。今年度は新型コロナウイルスの影響で外出が自粛となっているが、天気の良い日にホームの周りを散歩したり、ベランダやテラス、玄関前の椅子などで外気浴を楽しんでいる。そうした中でもおにぎりを持ち近くの公園にピクニックに出かけたり、小人数に分かれドライブを兼ね、季節の花見や初詣に出掛けたりもしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物等は施設で立替えている。ご本人の買い物のため、ご本人やご家族の希望で現金をお預かりしている方もある。現金を持っていないと落ち着かない方についてはご家族の同意をいただき財布を持っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望のある方については支援している。ご家族から電話があった時は替わって話をしてもらっている。携帯電話を持参されている方もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を活けたり、貼り絵等で季節を感じられるようにしている。落ち着いて過ごせるよう、室温や照明に配慮している。排便後等、臭いの気になる時もある。	玄関を入ると和室とリビング兼食堂があり、リビング兼食堂は天井も高く広々とし開放感に溢れ、一角には畳スペースがあり、また、居室間の廊下にはベンチなども設けられている。壁には利用者制作の大型の作品やぬり絵などが数多く飾られ日々の生活の様子を窺うことができる。そのような中、気の合う者同士で話をしたりテレビを見たり、歌を唄って寛いだり、折り紙や季節のクリスマスリース作り、手芸、体操などに勤む利用者の姿が見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや廊下のベンチやで一人で過ごしたり、気の合う方と話したりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は使い慣れたもの、馴染みのもので準備していただくようお願いしている。写真等を飾る等過ごしやすい工夫をしている。室温はその方に合わせて調節している。	各居室は十分な広さが確保されており、洗面台も設けられ暮し易い造りとなっている。持ち込みは自由で遺影が置かれた居室、衣装ケース、ダンス、ソファー、テレビ等が配置された居室、壁に市からの米寿の賞状、職員より送られた写真入り誕生日お祝いカード、家族の写真などが貼られた居室などがあり、快適な日々を送っていることが窺えた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	分かりやすく張り紙をしてわかりやすくしたり、移動する場所に危険な物を置かない等配慮している。		